

120708 チョウと蛾の違い…

この季節、樹林の中の薄暗い歩道を歩いていると、こちらの気配に気づいて、まるで酔っ払っているかのごとく“ふらふら”と飛び出し、羽の白い帯模様が円を描くような残像を残す、このような生きものによく出会います。

昼間に飛んでいるので「チョウ」なんだろうかと、とも思いますが、ぎこちない飛び方を見るとチョウにしては不自然な感じですが。

これは「ホタルガ」という蛾の一種なのですが、それでは「チョウ」と「ガ」の違いというのはどこで見分ければいいのでしょうか…？

- ◇チョウは日中に飛ぶので、結構色鮮やかな種が多い
(薄暗いところを好む「クロヒカゲ」などは地味な色合いである)
- ◇とまっているとき、チョウは羽を閉じるが、ガは水平に開く
- ◇体型は、チョウはスマートであるが、ガは肥えている
- ◇触覚は、チョウは細くて先端が丸いが、ガは羽毛状とか櫛状

このような見分け方をされている方が多いのではないのでしょうか？

そして、「チョウは好きだけど、ガはちょっとね…」と思われている方が多いのではないのでしょうか？

生物学的に見れば、日本には250種類くらいのチョウがいますが、一方、ガはその10倍以上の種類がいるようです。

どちらも同じ「鱗翅目」であることを考えると、「ガ」こそが豊かな多様性を体現している種である、と言えるかも知れません。

でも…

野山を歩いていると、これらの概念では区別できないような、一体チョウなのか、ガなのかかわからない生きものに出会うこともあるのです…

では、ここ1週間間に南河内の野山で撮影した種を参考にしてみましょう！

◆写真①： ホタルガ

- ◇日中にふらふらした感じで飛んでいます。
- ◇漆黒の羽だけならともかく、非常に目立つ白くて太い帯、さらには小さいけれど赤い顔、この出で立ちで呑気？にふらふら飛んでいると、捕食者の恰好のカモにならないのか、心配になりますね…
- ◇どうやら、この赤と黒の対比は鳥に対する“警告色”のようで、食べても“まずい”のか、嫌な臭いを発するのか、鳥たちは彼らに手を出さないそうです。

◆写真②： イカリモンガ

- ◇日中、ヒラヒラとゆっくり飛び、花に止まって蜜を吸っています。

- ◇「日中に活動する」「羽を閉じてとまる」「触角が細い」など、チョウの特徴を兼ね備えています。
- ◇このように、なよなよとした感じの頼りなげな飛び方を除けば、チョウだとしか思えないのですが…
- ◇でも、名前からもわかるように「ガ」に分類されているのですが、チョウとガの違いを議論する際には、しばしば登場するレギュラーメンバーになっている種なのです。
- ◇名前の“イカリモン”とは、羽のオレンジ色の模様が碇（いかり）の形に似ているからです。

◆写真③： トンボエダシャク

- ◇日中、木の周りをヒラヒラとゆっくり飛び、花に止まって蜜を吸っています。
- ◇この写真の個体は、雨を避けて葉裏にとまっているところです。
- ◇「日中に活動する」「体がスマート」「触角が細い」など、チョウの特徴を兼ね備えています。が、「ガ」です…

◆写真④： キンモンガ

- ◇黒地に薄黄色の紋が目立つ羽が特徴なのですが、この写真のように紋が白っぽい個体もいます。
- ◇「日中に活動する」「体がスマート」「触角が細い」など、チョウの特徴を兼ね備えています。が、「ガ」です…

◆写真⑤： キスジホソマダラ

- ◇日中に活動し、花に集まりますが、雄の触角は櫛歯状ですので、直感的にも「ガ」、ですね。

◆写真⑥： キマダラセセリ

- ◇セセリの仲間は、その太めの体型から「ガ」だと思われがちですが、「セセリチョウ科」に分類される「チョウ」なのです。

◆写真⑦： クロヒカゲ

- ◇暗いところが好きで、地味な羽色ですが、「タテハチョウ」の仲間です。

◆写真⑧： ビロードハマキ

- ◇日中に活動する派手なやつ、というイメージですが、羽を広げるとさらに派手さを増すのですから驚きです…
- ◇図鑑で見ただけでは知ってはいましたが、実物を見たのは昨日が初めてです…
- ◇チョウには見えませんが、じっとしていると何かもっと他の生きものに見えてしまいます…















